

山形文化遺産防災ネットワークの 活動報告 2024（令和6）年

小幡 圭祐

2024年7月豪雨被害における文化財レスキュー



新庄ふるさと歴史センター

1983（昭和58）年の開館。新庄市の歴史・文化・祭り・民俗を紹介。

おまつりホールでは、ユネスコ無形文化遺産である新庄まつりの山車（やたい）を展示している。

地下1階2階にある雪国民俗館では、6つの展示室で12,000点にもおよぶ雪国の暮らしにまつわる民具を収蔵・展示（市指定文化財「雪国の民具」）。

新庄市出身の人間国宝の鍛金家「奥山峰石」と洋画家

「近岡善次郎」の作品を紹介する記念室がある。

7月25日（木） 夜間 大雨の影響により、排水処理量以上の水が地階に流入（内水氾濫）

7月26日（金） 8:00 **地階展示室・機械室の浸水確認**

B1 第1 民具室 最大4cm

B2 第3 民具室 最大110cm

B2 機械室・電気室 最大104cm

市指定文化財「雪国の民具」
12,000点のうち3,003点が水損

9:00 全館停電

11:30 排水作業開始

7月27日（土）16:00 水がある程度引いたことを確認し、水損した資料をB1へ移動

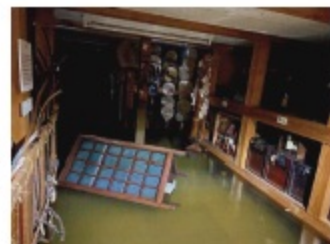
7月28日（日）8:00 展示室、機械室、電気室内の排水完了確認

8月4日～11月4日

計6回に渡ってレスキュー作業を実施

山形文化遺産防災ネットワークを中心に、新庄市、山形県、県博物館連絡協議会加盟館、山形県立博物館、県埋蔵文化財センター、山形大学、東北芸術工科大学、筑波大学、国立文化財機構文化財防災センターほか
各回10～30名が参加。

- ・B2 展示室に残された資料の引き上げ・乾燥（水没しなかった資料、重い資料等）
- ・水没した展示室の清掃・除菌・除湿
- ・水損しなかったものの湿度90%近い環境に残されたことでカビの発生がみられた
- ・B1の資料のクリーニング・除菌
- ・乾燥済みの資料のクリーニング・除菌



館内は真っ暗で蒸し暑い環境での作業だったが、多くの方々の支援によって、水損した資料の多くは、乾燥・クリーニング・除菌を終えることができた。9月以降は除湿機が稼働し、気温も下がってきたこともあって、安定した環境が維持できている。1歩ずつ復旧・再開に向かっていく。

文化財日常管理・防災ハンドブック&研修会

3月29日に山形県が東北芸術工科大学・国立文化財機構文化財防災センター・山形文化遺産防災ネットワークの協力のもと『文化財日常管理・防災ハンドブック（美術工芸品）』を刊行した。また、ハンドブックの普及も兼ねて、県主催で9月27日に村山地域（山形市）、11月24日に庄内地域（鶴岡市）にて山形県文化財日常管理・防災研修会を開催し、山形文化遺産防災ネットワークもブースを設け文化財の日常管理の個別相談に応じた。2025年には置賜・最上地域でも実施予定である。

